

## 束縛と自由 (創世記 39:1-5)

人生にはさまざまな束縛があります。その中で人々は、仕方がない運命だとあきらめるか、自由を手に入れようともがく場合があります。今日、奴隷だったヨセフの姿から、奴隷という束縛の中で、神の民、契約の人のヨセフはどのような反応をしたのかを見ましょう。そして、信者である私たちは、束縛の中でどうするべきなのかを知り、勝利者、証人として用いられる道を進みましょう。

奴隷は、人間扱いされず、財産の目録の中のひとつに数えられるものでした。ですから、個人的な自由はまったく存在せず、人権も社会保障ありません。奴隷になったら人生はおしまいだと思うしかなく、あきらめて、死ねないから生きているという状態か、束縛から解放されようと逃亡を企てる生活になります。毎日、任された仕事をしますが、なんの喜びも、生きがいもありません。そのような暗い奴隷生活の中で、ヨセフは世の法則に縛られずに、平安の中で、生き生きとして勝利を収めていました。なぜなら、ヨセフには、**まことの自由、たましいの自由があった**からです。このように、世の制度や束縛、どんな力も奪うことができない自由を持っているのがクリスチャンです。

創世記 3:15 のキリストを信じている者は、キリスト者です。人間を罪の奴隷にして、地獄の運命で滅ぼす悪魔の頭を踏み砕いたまことの王キリストを信じる者です。キリスト・イエスがともにおられ、「キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです」(ローマ 8:2)と言われているように、たましいを根本から解放してくださり、自由となりました。

ヨセフはキリストにあって自由だったので。「主がヨセフとともにおられたので、彼は幸運な人となり、そのエジプト人の主人の家にいた。」(創世記 39:2) キリストにあって、まことの全能の神、創造主、契約の神様がヨセフとともにおられました。その神様が、世界を動かし、すべてを支配されているとヨセフは知っていました。ヨセフは、自分はどんな存在かを知っていたのです。

神様は聖霊で内において、ともにおられます。子としてくださいる霊を受けて「アバ、父」と呼べるようにしてくださいました(ローマ 8:15)。いのちの霊である聖霊がともにおられるので、地上のことに束縛されることなく、自由です。パウロは「愛してくださる方によって、圧倒的勝利者となる」と告白しています(ローマ 8:35-37)。契約の民、キリストを信じる信者の自由はだれも、なにも奪うことができません。すべてのことを働かせて益としてくださる(ローマ 8:28)ので、すべてに対して自由です。どんなことも、神様の愛から切り離せなく、真理(=キリスト)を知り、その真理によって自由にされました。身分は奴隷でも、主において自由です(1コリント 7:22)。ダビデは、死の陰の谷にも束縛されませんでした。パウロも、刑務所の中で、自分を束縛するものはないと言いました。神様がともにおられる、キリスト・イエスにある自由を奪うことができるものではありません。

これが、キリストを信じる者に与えられている**御座の祝福のパワー**です。地上の全ての束縛は、御座の祝福で自由になります。キリストがともにおられる契約の人には、神様がともにおられるので、信仰の自由、賛美、感

謝、希望、祈れる自由を奪うことはできません。キリストがどういう方か、キリストによって召されていることはどういうことかを正しく知りましょう。自分の考えや評価ではなく、祝福と自由を味わい、楽しみましょう。言い訳、弁明、不平不満、ため息は不要です。キリスト教の歴史を見ても、契約による賛美、祈り、希望の自由は世にあるものでは奪えなかったことがわかります。ネロ皇帝に火あぶりにされて死んでいくときも、クリスチャンは自由を味わっていました。問題、欲しいこと、不満などがあるのは、霊の問題です。契約のパワーは大きいのです。

自由人のヨセフは、あきらめることも不平不満ありませんでした。与えられている今日、今を神様がゆるされたことだと認めて、神の子どもとして一日に向かっていました。奴隷の一日ではなく、最高の一日としていたのです。今日に都合が悪いように見えても、そこで**自由を味わい、今日を最高の日、神様の日として生きました**。それをポティファルが見たのです。世の法則に縛られず、キリストにある自由を味わい、今日、いまを神の子ども、自由の人として当たることをオンリーの人と言います。漠然とした希望ではなく、

今日は、神様が与えられた日だと自由人として賛美、感謝、祈りをささげ、与えられていることに最善を尽くしました。このようにオンリーの方は、一日一日与えられた今を生きます。そうすれば、自分の力を超えて、すべてを越えて、神様だけが与えられる神様の力の唯一性の答えが与えられます。そこで、ヨセフはポティファルの家の全財産を管理するようになりました。ヨセフの努力ではありません。オンリーの人として今日の一日に勝利していたら、地球のすべてを超える唯一性の答えが与えられたのです。そして、再創造の力が現れます。それによって、長官、王、世界中を助ける、再創造の主人公となりました。オンリーの人として立ったら、あとは神様がなされたのです。

世の法則に縛られる必要がない、なにによっても束縛されない自由があります。キリストの中にある契約は、信じる者に与えられた祝福です。キリスト・イエスにある愛から、切り離すものはありません。契約の民として、すでに自由が与えられていることを感謝し、まことのたましいの自由を味わい、再創造の祝福が待っているのを、それを手に入れるために歩んで行きましょう。

### 1部-創世記 39:1-5 束縛と自由

なるほど/人々はどんな形の束縛でも、その中で諦めたり、あるいは自由を求めてもがいたりするが、世の中の何ものにも縛られない魂の自由をもつ契約の信者は、今日の日を Only で生きて、唯一性と再創造の勝利の道歩く。ならば/私に与えられた真の自由を確認して感謝しよう。世の法則に束縛されない自由人として言い訳や不平不満を捨てて、契約にある自由を存分に味わおう。

### 2部:使徒 1:1-8 神様が私に与えられたもの(だけ)に

なるほど/神様が私に与えられた最高のプレゼントであるインマヌエルの大きさを知り、自分を否定し、インマヌエル中に深く入ることが癒しと伝道の道になる。ならば/インマヌエルを感謝しよう。私のすべて(特に弱さ)の理由をインマヌエルだけで解いて、その祝福を体験しよう。